

平成17年度病害虫発生予察特殊報第1号

栃木県農業環境指導セン

ター 平成17年7月14日

りんどうの新病害『炭疽病』について

1 病原菌：*Colletotrichum gloeosporioides*(コレトリカム・グロエオスポリオイデス)

Colletotrichum acutatum (コレトリカム・アキテイタム)

2 作物名：りんどう

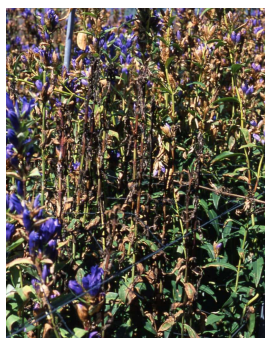
3 発生経過

栃木県那須町のりんどう(エゾ系)のほ場において、数年前から夏期(特に8月下旬以降)に激しい株枯れ症状が発生した。栃木県農業試験場で調査したところ *Colletotrichum*属菌が高率に分離された。分離菌のりんどうへの接種により病徴が再現され、接種菌が再分離された。分離菌はその形態や種特異的プライマーを用いたPCR検定により、上記2種の糸状菌と同定された。

4 病徴

茎葉に褐色の斑点を生じ、病勢が進展すると激しい株枯れ症状を呈する。

現地での発病状況



激しい株枯れ



5 病原菌の形態及び生育適温

○*Colletotrichum gloeosporioides*(コレトリカム・グロエオスポリオイデス)

分生子は無色、単胞で両端が丸い円筒形で、大きさ $11.3\sim 19.5\times 5.0\sim 7.5$ (平均 14.0×5.8) μm であった。PCA培地上での付着器は暗褐色、不正形で、大きさ $7.5\sim 15.0\times 5.0\sim 10.0$ (平均 11.5×7.6) μm であった。菌糸の生育は、 $10\sim 37^{\circ}\text{C}$ で認められ、適温は $28\sim 30^{\circ}\text{C}$ であった。

○*Colletotrichum acutatum* (コレトリカム・アキテイタム)

分生子は無色、単胞で紡錘形～両端が尖った長楕円形で、大きさ $10.0\sim 17.5\times 3.8\sim 6.5$ (平均 13.5×5.1) μm であった。PCA培地上での付着器は暗褐色、棍棒形で、大きさ $7.5\sim 12.5\times 5.0\sim 8.8$ (平均 9.2×6.2) μm であった。菌糸の生育は、 $10\sim 35^{\circ}\text{C}$ で認められ、適温は $25\sim 28^{\circ}\text{C}$ であった。($1\mu\text{m}=10^{-6}\text{ m}$)

培地上の菌叢



6 防除対策

- (1) 降雨は発病を助長するので雨よけを行う。
- (2) 排水対策を行う。
- (3) 強いかん水は発病を助長するので、点滴チューブかん水を行う。
- (4) 被害株、被害茎葉は見つけ次第取り除き処分する。

TEL 028-626-3086

<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>